工業新聞

第３種郵便物認可

町工場競う技能五輪

神奈川・綾瀬市が来月

まず溶接、若手育成で活性化

神奈川県綾瀬市で、市内町工場の若手技能者育成を目的とした技能競技大会「あやせ技能五輪」が開かれる。自治体が中小製造業向けの技能大会を主催するのは珍しい。初開催となる今回は溶接作業の技能者を対象に行う。大会の模様は動画共有サイト「ユーチューブ」の市専用アカウントで後日発信する。日ごろ磨いてきた技術力を披露する機会を提供することで若手技能者のモチベーション向上を図り、市内製造業の活性化につなげる。（横浜・大原翔）

町工場の技術を共有する「あやせ工匠塾」。あやせ技能五輪は訓練の成果を披露する場に

会場は大場工業所（綾瀬市、大場洋一社長、０４６７・７６・６２２５）。参加者は10人の予定。10月に２回の日程で開催し、各日５人が競技を行う。溶接の経験が１年以上ある35歳までの技能者が参加する。

競技では板厚９㍉㍍の鋼板を溶接する。評価方法は外観検査のほか、目視で分からない欠陥の有無を確認する浸透探傷検査を採用。当日は見学不可だが、市などが主催する11月の市民イベントで表彰式や動画による競技の実施報告を行う。同市職員も定員枠外で競技に参加し、一般人と技能者の腕前の違いを比較しやすくする。

市は２０１７年度から中小製造業が持つ優れた技術を市内の他の町工場で共有するための勉強会「あやせ工匠塾」を開いている。社外にも技能を伝承することで市内企業の技術力の底上げを図る取り組み。大場工業所のベテラン技能者が溶接技術を塾生に教えてきた。

市は、あやせ技能五輪を工匠塾に参加してきた技能者が訓練の成果を披露する場としても位置づける。同五輪の審査は同社のベテラン技術者や中小企業診断士などが担当する。19年度以降は溶接以外の技能を種目に加えることも検討し、地域企業の技術力向上を促していく。

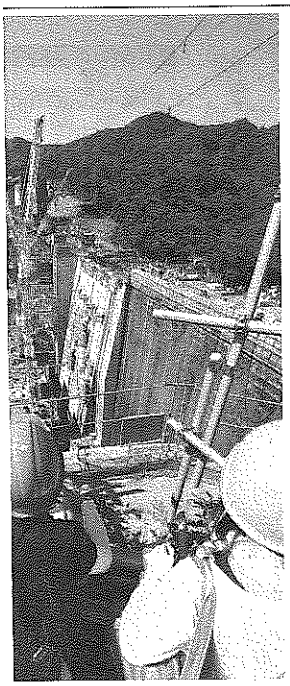
女性視点で職場改善

川口会議所、会員企業に提案

【さいたま】川口商工会議所は、２０１８年度中に「女性視点の魅力ある組織づくり」を推進し、各事業所に発信していく。会員企業の女性社員が結成し狙い。

チームは２０１７年末に結成。女性メンバーの12人が、埼和興産（埼玉県川口市）など建設・不動産グループに分かれ、９月にプレゼンテーションを実施した。

建設・不動産グループは「女性用のトイレ、更衣室の設置などハード面の環境作り」NS）での発信の効果一良いという。同会議所を説明。女性によるハロウィーンなど時宜にかなった投稿は反応が

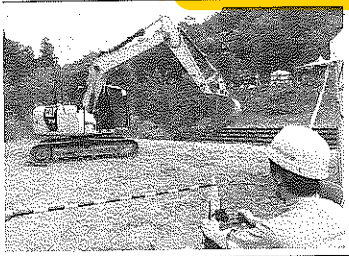


馬県長野原町）。工事な見学プラン「八ッ場ーは月１回、12月までの未来を語り、参加者。参加費は500円。は2019年度の完成に向なく地上100㍍（完成なダム建設の夜景も魅（写真・文＝田山浩一）

の児玉洋介会頭は「提案をプラッシュアップし、広く会員に発信する」と話した。業界団体への訴求や同会議所が持つＳＮＳの活用などで具体化を進める。

高効率で安全な林業技術一堂に

イノベ推進機構がフェア



【福島】福島イノベーション・コースト構想推進機構と福島県は、福島県川内村のいわなの郷で「先端林業技術体験フェア」を開いた。森林資源の循環で作業効率や安全性を高める最先技術、シス した。国や進するイノ・コースとして開か体、林業関２００人が コマツ産郡山市）はリアルに再でハーベス伐採機）の できるシミを展示。（東京都港の重機に装作ロボット遠隔操縦（写真）。

航空レ 高度分析に本数や樹高情報を入手テムを提案航測森林・ーション技淳司部長は術を多くのってもらった」と手応いた。福島部の佐竹進家プロジェエアを活用利益の出せ成長産業に